日本臨床発達心理士会 中国･四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第8号（2007年5月14日発行）

発　行　日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編　集　日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局　〒739-8524　広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680)　FAX:0824-24-5261

目　次

1　ご挨拶
2　日本臨床発達心理士会中国・四国支部第５回総会のご案内(重要)
3　日本臨床発達心理士会中国・四国支部第８回研修会報告
4　日本臨床発達心理士会中国・四国支部第９回研修会報告
5　日本臨床発達心理士会中国・四国支部第10回研修会のご案内
6　事務局からのお願い
7　編集後記～会報企画へのご投稿を～

1　ご 挨 拶

日本臨床発達心理士会 中国･四国支部
幹事　山崎　晃

風薫る緑の季節，中国四国支部にご所属の皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

心の支援を必要とする多くのところで，支部会員の皆様も日々ご活躍のことと存じます。社会環境の急激な変化，経済格差の拡大，ストレスの増加，少子高齢化などによる地域や家庭などの教育力の低下などを直接・間接に原因とする様々な悩みの増加や支援要請の増加など，臨床発達心理士が果たすべき役割は，次第に重く，また緊急の度合いを増しております。これまで特別支援教育，子育て支援，保育支援などに加えて，思春期・青年期や老年期を対象とした支援の必要性も強調されるようになっております。臨床発達心理士の基本的スタンスであります「発達的観点・視点」を基礎とする生涯発達の視点をもった支援をもう一度確認する必要があるのではないでしょうか。他者支援の基礎のひとつには，自分自身を見つめ，理解することにあると思います。研修会や臨床発達心理士全国大会への参加などを通して，支援のあり方について最近の研究や実践を学ぶ機会は多くあります。是非ともご参加下さい。

ご承知のことと存じますが，昨年度関東地区は都県別に６つに分割されました。中国・四国地区も将来的に分割の可能性があります。分割のメリット・デメリットなどを十分に検討した上で決定すべきことではありますが，会員の皆様もそれについて，お考えやご意見をお寄せください。

支部の運営や活動などにつきまして，支部会員の皆様からの要望をお寄せいただきたいと存じます。中国・四国支部の運営をどのように行っていくかは，会員の皆様によって決定されます。お忙しいとは存じますが，ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお，臨床発達心理士の資格を初年度に取得された会員の方は，今年度，資格更新があります。ご自身の研修ポイントをもう一度お確かめになり，不足分がございましたら，研修会にご参加ください。

2007年5月10日

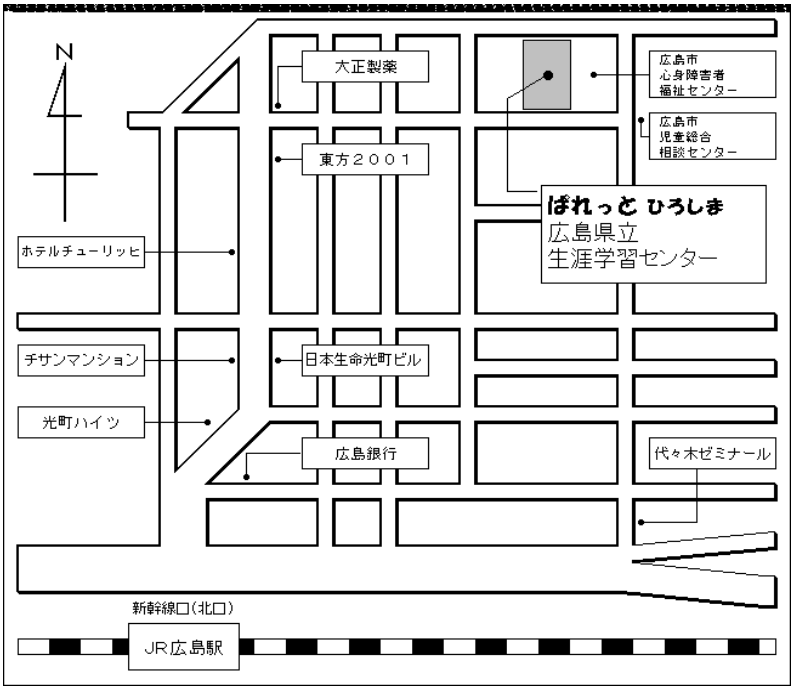
追伸

ご都合で出席なさらない会員の方は，委任状をお送りくださいますようお願い致します。

2　日本臨床発達心理士会中国･四国第5回支部総会のご案内

2007年度中国・四国支部総会を次のように行いますので，ご参加下さいますようご案内申し上げます。

1.日　時　2007 年 5 月 26 日(土)13:00～14:00
2.場　所　広島県生涯学習センター制作室
3.議　題
(1) 2006年度活動報告
(2) 2006年度会計報告
(3) 2007年度活動案計画
(4) 2007年度予算案
(5) 日本臨床発達心理士会中国・四国支部一部役員辞任と次期役員選出について
4.広島県立生涯学習センターへのアクセス



■ JR 広島駅新幹線口（北口）から約 700 メートル
■ JR 広島駅南口から約 900 メートル（駅構内地下自由通路を経由）
■ 紙屋町からバス（広島バス）約 20 分（いずれも若草町下車約 600 メートル）
・県庁前～戸坂東浄団地行
・バスセンター～寺分行
・バスセンター～上温品行
・バスセンター～上深川行・バスセンター～小河原車庫行

※　なお，ご都合で出席なさらない方は，必ず期日までに事務局宛に委任状をお送りくださいますようお願い致します。総会成立のためにご協力の程お願い申し上げます。

３　日本臨床発達心理士会中国･四国支部第8回研修会報告

2007 年２月４日(日)，岡山県ゆうあいセンターにおいて，中国・四国支部第８回研修会が行われました。講師に川間弘子先生（NPO 山口発達臨床支援センター，臨床発達心理士・言語聴覚士）をお迎えし，「発達アセスメントから支援へ」と題してご講演頂きました。

当日は，先生が普段取り組んでおられる子どものスクリーニングの様子をビデオで紹介していただき，その様子から気づいた点を課題，指導者とのかかわり，子どもの反応などから参加者全員がレポートしました。何からどのような情報を得るのかという，スクリーニングに必要な視点を，実際に演習の中でロールプレイなどを交えながら学習していきました。そして，子どもの人や物とのかかわり方から，障がいの特性・発達段階を想定し，

様々なスクリーニングを通して総合評価した後に，支援目標や課題を設定することが大事であること，さらに，テストと訓練とは別のもので，訓練では失敗体験を減らしてやることが大切であることなど具体的にご教示頂きました。聴くだけでなくやってみることで多くのことを学ばせて頂いた有意義な３時間となりました。参加者数は９名，臨床発達心理士会各支部主催研修会として，資格更新ポイントは１ポイント（３時間）でした。

4　日本臨床発達心理士会中国･四国支部第9回研修会報告

2007 年 3 月 10 日(土)，広島県生涯学習センターにおいて，中国・四国支部第９回研修会が行われました。講師に藤原彩先生（広島大学病院：チャイルド・ライフ・スペシャリスト）をお迎えし，「入院しているこどもとその家族への発達・生活支援－チャイルド・ライフ・スペシャリストの活動－」と題してご講演頂きました。

藤原先生は、2001 年 3 月広島大学大学院教育学研究科幼児教育学修了後、2003 年 12 月 Illinois State University 大学院（Family and Consumer Sciences 科 Child Life Course）を修了され、日本で５人目のチャイルド・ライフ・スペシャリストとして 2005 年 3 月より広島大学病院に勤務されています。広島大学病院では，2005 年 3 月より入院しているこどもとその家族のストレスを軽減し，なおかつこどもの通常の発達を促進する目的で，チャイルド・ライフ・スペシャリスト（以下;CLS）が配属されました。チャイルド・ライフとは，北米における病院，およびその関連施設等で，こどもとその家族が感じるストレスと不安を最小限に抑え，最良の成長と発達を補償するために開発，導入された入院しているこどもとその家族に対する専門的な介入のことをいいます。藤原先生には広大病院で，医療スタッフの一員として，CLS による支援の内容や方法、他職種との連携について具体的な事例をもとにお話しをいただきました。CLS は今後わが国でも必要性が高まっていく職種で、臨床発達心理士にとっても有意義な知見を得ることができました。当日は，参加者数は 5 名，臨床発達心理士会各支部主催研修会として，資格更新ポイントは１ポイント（３時間）でした。

5　日本臨床発達心理士会中国･四国支部第10回研修会のご案内

中国・四国支部の活動として総会に引き続き研修会を開催いたします。何かとお忙しい時期ですが，たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。

1.日　時　5 月 26 日（土）14:00～17:00(休憩含む)
2.場　所　広島県生涯学習センター制作室　（アクセス図(P.2)参照）
　　広島市東区光町二丁目１－１４
　　TEL：082 -262 -2411（代表）
　　http://www.pref.hiroshima.jp/kyouiku/gakushu/center/
3.講　師　津川秀夫先生(吉備国際大学心理学部臨床心理学科・准教授)
4.演　題　「発達支援にいかすブリーフセラピー」

ミルトン・エリクソン（1901-1980）は，「20 世紀最大の心理療法家」と言われるほどに治療の「腕」が際立っていました。エリクソンの臨床を伝える資料は多く残っていますが，それらに目を通しても私たちがエリクソンのように実践するのはやさしいことではありません。しかし，残念がることはありません。エリクソンの知見や技法を私たちが実践しやすいように編成したアプローチがあるからです。それがブリーフセラピーです。今回の研修では，「発達支援にいかすブリーフセラピー」として，発達をめぐるさまざまな問題にどのようにブリーフセラピーの視座を活かすか，子どもとその保護者にいかに関わるか，エリクソンという源流に触れながらブリーフセラピーを基礎から学ぶ機会を提供します。

6 事務局からのお願い

◇「臨床発達心理実践研究誌」の原稿募集について

本誌第2巻の発刊に際しまして、臨床発達心理実践研究誌(以下本誌)編集委員会より支部に原稿の推薦要請が来ております。会員のみなさまの活動実践を是非ともご投稿下さい。ご投稿予定のある支部会員の方は、10月頃までに支部事務局までご連絡ください。原稿募集の概要は以下の通りです。なお、原稿作成に関するお問い合せは本誌編集委員会までお願いします。

・原稿締切：2007年12月

・論文制限字数：図表を含み8000字から10000字(変更されました)

詳細は臨床発達心理実践研究誌第１巻末の投稿論文原稿作成要項を参照してください。

◇ご登録アドレスの変更について

メールで総会，研修会などの情報提供をしていますが，一部の方のメールが不達となって戻ってきております。アドレス変更がある場合は事務局までお知らせください。また，メールでの情報提供を新たに希望される方も，事務局までアドレスをお知らせください。

7 編集後記 ～会報企画へのご投稿を～

新緑が目に鮮やかな季節となりました。中国・四国支部会報は今回で第8号となりました。初年度資格取得者のみなさんは，いよいよ資格更新の手続きがやって参ります。各自で更新に必要なポイントの条件を満たしているかどうかご確認いただき，今後の更新手続きに関する情報をご覧の上，申請手続きを行って下さい。また，支部会員の数も年々増加し，今後の支部の活動を活発化させていくためにも，支部会報の内容を充実させていきたいと考えております。そのため，今後も支部の会務報告や研修会報告・ご案内の他，会員相互の情報交換等にも役立てて，バラエティにとんだフレッシュな紙面作りをしたいと願っています。そこで，会員の皆様から今後も次のようなご投稿を広く募ります。会報に対するご意見も気軽にお寄せ下さい。　(宛先：yashima●sanyo.ac.jp：Emailご利用の際は、●を@にかえてご入力ください。)

1 中四会員紹介

この企画ではそれぞれの実践現場のご様子を紹介して頂き，会員相互の交流や理解を図れたらと思います。会員のみなさまからの自薦他薦大歓迎です。是非みなさまの職場のご様子，臨床発達心理士資格を取得して想うこと等，お寄せ下さい。また，編集委員から依頼させて頂きました折には，趣旨にご賛同頂きご協力願えましたら幸いです。

2 耳より中四情報

会員の方にお知らせするとよさそうな臨床発達心理関連の研修会，図書情報等を200字程度でお知らせ下さい。発行時期の都合で間に合わない場合もあるかと思いますが，随時ご紹介させて頂きます。

（編集委員会）